

経営倫理研究所

Epistemic Research Institute of Social Ethics (ERISE エリス)

研究所の概要

1. 目的

グローバル・サウス諸国と連携し、新たな3層構造のグローバル・システムを構築し、さらに「応用情報社会学近代化モデルに基づく近代文明の「応学進化」のための基礎研究を進める

2. 設置期間

2017年4月1日～2027年3月1日

3. メンバー

17名(所長を除く)

4. 活動概要

海外の提携大学/政府関係機関等との共催セミナーの開催、
協働プロジェクト/協働研究の推進等



所長

前田 充浩

MAEDA Mitsuhiko

キーワード

経営倫理、近代化、グローバル化、
情報社会学、グローバル・サウス、
応学進化

令和7(2025)年度の研究活動内容及び成果

1. 活動内容

(1) 応用情報社会学近代文明進化モデル研究(近代文明の応学進化)

- ・応用情報社会学近代文明進化モデルに則り、近代文明の応学進化を基礎づける研究を実施する。応学(adapting)、とは、工学(engineering)の対概念であり、工学は人間の効用関数を変更することなく、その上で効用最大化を実現するために環境の側の状態を変更するための技術体系である。「人間の欲望の実現を無制限に認める」ものである。応学とは、人間の効用関数を変更するための技術体系であり、環境の状態を変更することなく高い効用を味わうことができるようになるものである。東洋哲学は、応学の宝庫である。
- ・応用情報社会学によると、人類の文明史は、工学文明と応学文明の交替の歴史である。近代文明は、典型的な工学文明であり、現下のさまざまな文明のシステム・リスクは、近代文明が工学文明であることから起因するものであり、その克服のためには小手先の対応では効果がなく、近代文明に応学文明の要因を導入する必要がある、そのための基盤を研究を実施する。

(2) グローバル・サウス・アウトリーチによる3層構造グローバル・システムの構築研究

- ・近代文明においては、従来は宗主国=植民地、先進国=発展途上国、援助供与国=援助受取国等、2層構造のグローバル・システムの構造が基本とされていた。一方、21世紀におけるグローバル・サウスの台頭の影響とイニシアティブを正確に受け止めるためには、3層構造のグローバル・システムの構想を整備する必要がある。
- ・このような認識に立ち、G20のグローバル・サウス4か国(インドネシア(2022年G20ホスト)、インド(2023年G20ホスト)、ブラジル(2024年G20ホスト)、南アフリカ(2025年G20ホスト))

ト)と連携し、グローバル・システムの「3層目」の構築のための諸基盤を整備する研究を実施する。

(3) グローバル・サウスの「リープフロッグ型」発展戦略研究

- 近代文明の進化について「単系的進化論」に立つと、近代文明における発展戦略の後発者である全てのグローバル・サウス諸国は、ヨーロッパ及び東アジアが辿ったものと同じ途を進むことを強いられることになり、グローバル・システムにおける序列は最後尾のままに甘んじることとなる。一方、応用情報社会学近代文明進化モデルによれば、「多系的進化論」は理論的に可能であり、グローバル・サウス諸国は「リープフロッグ型」発展戦略を実装することが十分に可能である。
- グローバル・サウス諸国の「リープフロッグ型」発展戦略を実現するための基盤研究として、具体的に、以下の2本柱を中心に実施する。第1の柱は、グローバル・サウスにおけるSEZ (Special Epistemic Zone) 型発展戦略、特に地域サイバーフィジカル・システムの構築に関する研究である。第2の柱は、グローバル・サウスにおける循環経済システム・モデル構築の研究である。

2. 成果

(1) 応用情報社会学近代文明進化モデル研究 (近代文明の応学進化)

- 2025年度においては、以下において本研究に関するセミナー/ワークショップを実施した。

① カンボジア法務省でのワークショップ (9月26日、プノンペン、カンボジア)	
② Dong A 大学との共催セミナー (9月30日、ダナン、ベトナム)	
③ マラナタ基督大学との共催セミナー (12月10日、バンドン、インドネシア)	
④ バンドン工科大学地球環境セミナー (12月11日、バンドン、インドネシア)	

- ⑤ ラオス国家大学でのワークショップ
(3月5日、ビエンチャン、ラオス)



- ⑥ ラオス商工会議所でのワークショップ (3月5日、ビエンチャン、ラオス)
⑦ アジア経済研究所バンコク研究センターでのワークショップ (3月9日、バンコク、タイ)
⑧ デラサール大学でのワークショップ (3月25日、マニラ、フィリピン)
⑨ 東ヴィサヤス州立大学との共催セミナー (3月27日、タクロバン、フィリピン)

(2) グローバル・サウス・アウトリーチによる3層構造グローバル・システムの構築研究
・ヨハネスブルクへ赴き、G20 プロセスに以下のように参画した。

- ① 南アフリカ政府投資公社 (Public Investment Corporation) Patrick Dlamini・CEO との協議 (11月11日)
② 志水史雄南アフリカ共和国駐箚特命全権大使との協議 (11月13日)
③ 南アフリカ政府投資公社 (Public Investment Corporation) 幹部とのワークショップ (11月13日)



- ④ SU (Start Up) 20 への参加 (11月14日)



⑤ V20 (Value 20) サイドイベント・セミナー『Innovative Governance for Disaster Resilience and Accountable Circular Carbon Future in the Global South』への参加/発表 (11月15日)



⑥ T20 (Think Tank 20) サイドイベント・セミナー『Dynamic Governance for a Resilient Global South: Innovative Strategies for Inclusive Growth in G20』への参加/発表 (11月17日)



⑦ JETRO ヨハネスブルク事務所との協議 (11月18日)

⑧ G20 Social Summit サイドイベント・セミナー『Dynamic Governance for a Resilient Global South: Innovative Strategies for Inclusive Growth in G20』への参加/発表 (11月19日)



(3) グローバル・サウスの「リープフロッグ型」発展戦略研究

・ 研究所長前田充浩が、以下の論文を発表した。

前田充浩、『近代文明の「リープフロッグ型」発展戦略としてのSEZ (特別睿智拠点: Special Epistemic Zones) 政策とマルチチュード政策』(東京都立産業技術大学院大学紀要第19号、2026年2月)

・ 2025年度においては、以下において本研究に関するセミナー/ワークショップを実施した。

① アジスアベバ科学技術大学でのワークショップ (5月28日、アジスアベバ、エチオピア)



② ディレダワ大学でのワークショップ (5月30日、ディレダワ、エチオピア)



③ ジンマ大学でのワークショップ (6月2日、ジンマ、エチオピア)



④ アダマ大学でのワークショップ (6月3日、アダマ、エチオピア)



⑤ アジスアベバ大学でのワークショップ (6月4日、アジスアベバ、エチオピア)



⑥ ジョモ・ケニヤッタ大学でのワークショップ (6月10日、ナイロビ、ケニヤ)



令和8 (2026) 年度の計画

(1) 応用情報社会学近代文明進化モデル研究 (近代文明の応学進化)

・引き続き、海外の大学／研究機関との協働研究を推進する。

(2) グローバル・サウス・アウトリーチによる3層構造グローバル・システムの構築研究

・インドネシア、インド、ブラジル、南アフリカの大学／研究機関との連携を強化する。

(3) グローバル・サウスの「リープフロッグ型」発展戦略研究

・SEZ (Special Epistemic Zones) 研究について、新設の Global Institute of Cyber Physical Systems との協働研究を推進する。

・循環経済システム構築研究について、政府、国際機関との協働研究を推進する。